

「古いビラ」シリーズ 第2弾 (誰に望まれた訳でもないが・・・)

目先を変えたつもりだが、やはり、大差ないかな???

高齢化・釜に来る仕事量の減少・生保の増、しかし、変わらぬ悩み

今号の夜間学校ニュースの裏面は、今から28年前の「夜間学校ニュース」の紹介です。配布場所は、今と同じ場所ですが、時間帯は、アブレ支給時間(午前11時)でした。当時は、毎日平均3千人前後の人が、アブレの支給を受けに集まっていたので、その日の夕方の行事を伝えるのに便利だったからです。今、アブレを受給する人は、平均百人前後でしょうか? 確かめていないから、正確ではありませんが、以前と比べて、大きく減少していることだけは確かでしょう。

アブレ支給の時間帯に配布していたのですから、主な読者としては、現役の日雇労働者を想定していたことになりました。勿論、アブレ続きの人や病気を抱えて野宿続きの人たちを無視していたわけではありませんが、飯場であれ現金であれ、「日雇いで生活を立てる人」の前提があったことは確かです。現在の夜間学校ニュースの配布パターンは、何日かに一回、新しい号を印刷した日の夕方にセンター内と周辺での配布。そして、毎朝(日曜休日を除く)

8時20分前後からセンター3階での配布です。配布時間帯でも分かるように、主な読者の想定は、夜間宿所利用者、センター周辺や公園・路上などで野宿している人、輪番就労者です。

2009年4月1日に復刊したときは、朝8時、手帳出しの時間帯から配布していましたから、現役日雇いも視野に入っていたといえます。その時の話題の中心は「定額給付金」でした。今のように、生活保護制度の活用一本槍ではなかった。だから、そうした、といえます。

「なにをグチャグチャ言うてるネン、ようするに、最近朝が遅いことの言い訳の屁理屈か」

マア、そういえなくもありませんが、本当に言いたいのは、裏面の古い夜間学校ニュースを見ながら、夜間学校ニュースの主な想定読者がどう変わろうと、中心になることは変わっていないということに気付いたということ。釜ヶ崎は、今も昔も「可能性」を奪われた人が沢山集まるようになっていて。課題は、個々人が、自分の「可能性」に気付き、行動すること。人は移ろい、入れ替わっても、理屈は一つ。人としての尊厳の現実化です。

これは裏面です。1983年2月4日、いまから28年前の「夜間学校ニュース」です。お勉強モード満載!???

夜間学校

釜ヶ崎夜間学校
西成区萩之茶屋1-9-7
釜ヶ崎解放会館2階
釜日労争議団気付

まだ見ぬ同志のおいでを待つ

今晚

市民館で!!

午後7時ヨリ



宿題 その1

釜ヶ崎の多くの労働者は、仕事の上で追い使われるばかりで、あまり責任を持たされることはない。そして、家で父の役割である責任とそれを果たす満足もない。上下関係でいえば、常に上から抑えつけられるばかりである。このことが心の動

きに与える影響は大きいと思

宿題 その2

心の動き、環境からの影響などがあつた。なかし、自分の心の動きを知り、ある程度コントロールする、というふうな処世術めいたことは誰ぞ知っているか。

とだ。そんなことには興味がない、マッピラゴメン。なぜ反省が必要なのか、何を求めてその目的なのか、もう一つははっきりしない。次回には皆で考えてほしい。

さて、今晚、みんなで頭をくぼらうのではないか。

下の図のよつこ、一人一人の脳の中にはさまざまなものがある。無意識のうち、にケンカしたく抑えつけたりして、意志が決定される。

先週は、そんな心の動きについて考えてみた。ト事(直参照)今週は、宿題が幾つか出されているので、それらについて、皆で考えてみたい。



アルコール・警察
病気・仕事の減少
不信感・怠情
すぐに得られぬ満足と自分の場
おまかせ主義・ミエとテライ
労働力の日々の売買で身についた
山商売人根性

